

永井建子の足跡

平成26年3月 石内公民館

※ 佐藤正二郎『ボクの洋楽回想記』山口常光『陸軍軍楽隊史—吹奏楽物語り—』

年号	西暦	年齢	永井建子のできごと	石内のできごと	社会のできごと	
慶応	元	1865	0	佐伯郡石内村臼山八幡神社境内に隣接した、父紐太郎が開いていた寺子屋で、母ひさとの次男として出生（幼名庄三郎）	慶応元年 第二次長州征伐 慶応3年 大政奉還・王政復古	
明治	11	1878	13	軍楽幼年試業生として教導団に入る	明治10年 石飛分校と丸山分校、教場分校をつくる 明治11年 丸山小学校とする 群区町村編成法施行により石内村となり、戸長役場が置かれる	明治元年 明治維新 明治2年 版籍奉還 明治6年 徴兵令
	13	1880	15	優等第一席で卒業、教導団軍楽隊に配属される	石内村村議会在が設立	
	17	1884	19	画家 松本民治につき、画学全科を習得		
	19	1886	21	寺西良と結婚 後に長男巴、次男要、長女すみれ、次女あやめをもうける	明治20年 丸山小学校を丸山文教室とし、石内簡易小学校をつくる 明治22年 町村制施行 「石内村」村役場が碓石城2741番地にできる 明治24年 石内尋常小学校	明治22年 大日本帝国憲法発布
	27	1894	29	日清戦争 軍楽隊員として出征、翌28年凱旋（この間「露営の歌」「雪の進軍」を作詞・作曲）		日清戦争（翌28年、下関条約締結で終戦）
	34	1901	36	陸軍軍楽学校生徒隊長に就任	明治33年 石内尋常高等小学校	
	35	1902	37	フランスに差遣 リヨン連隊軍楽隊付となる 吹奏楽等音楽研究に没頭 翌々37年帰国		
	38	1905	40	陸軍楽長 戸山学校軍楽生徒隊教官 東京日比谷公園の演奏開始 最初の演奏の指揮をとる		日露戦争（翌38年、ポーツマス条約締結で終戦）
	39	1906	41	勲五等双光旭日章 第6代軍楽隊隊長となる 石内尋常小学校校歌『高き山長き水』作曲		
	40	1907	42	オペラ『ファウスト』の主演を演じる 自作オペラ『養老乃瀧』を公演 弦楽器購入費を申請し許可される		
	42	1909	44	富士山山頂で演奏会 酸素不足で不調に終わる		
	43	1910	45	ロンドンで日英同盟記念親善博覧会が開催され、3月軍楽隊35名とともに指揮者として参加 6月 日英博覧会事務局から文芸部審査事務を囑託される 日英博覧会から軍楽隊に対し、グランドプライズ（優秀賞）が贈られ、永井には博覧会総裁コンノート親王殿下から銀製の記念指揮杖を下賜された 12月帰国	 日英同盟記念親善博覧会	
	44	1911	46	日英博覧会演奏に功績があったとして、総裁コンノート親王殿下から銀牌が贈られた 明治天皇に単独拝謁		
大正	2	1913	48	東京音楽学校（現東京芸術大学音楽学部）楽語調査委員を囑託される 早稲田実業高校校歌作曲（この頃に歌われていたとされ製作年はこれより前）		大正3年 第一次世界大戦
	4	1915	50	陸軍教育總監上原勇作大将から記念指揮杖を受ける 定年のため予備役に編入される 軍楽教師を囑託される 東京市から日比谷公園音楽創始の功勞に対し記念品が贈られる 文部省御大典奉祝唱歌楽譜審査委員に任命される		
	5	1916	51	東京音楽学校の管楽講師を囑託される 軍楽教師を辞す 帝国劇場洋楽部長に就任		
	8	1919	54	拓殖大学校歌作曲		
	12	1923	58	牛込区富久町で関東大震災に遭遇 要職を辞して広島市外古田村宇古江に帰る		関東大震災
昭和	3	1928	63	広島市昭和産業博覧会事務局を囑託される 崇徳中学校校歌作曲		
	4	1929	64	昭和産業博覧会に協賛した中国新聞社により「広島市歌」を作曲し広島市に寄贈（歌詞は畑耕一）		
	7	1932	67	広島のNHKから2月「『雪の進軍譜』の実践的思い出を語る」と題して全国放送 同年4月「軍歌の夕べ『軍歌源泉の飛沫』」と題して全国向け放送 広陵中学校校歌作曲		
	9	1934	69	1月 九段の軍人会館（現九段会館）に日本画を寄贈 12月 廿日市警察署に日本画を寄贈 古田小学校校歌作曲		
	10	1935	70	日本画「南天の図」 福屋美術展最優賞	石内に残した絵画	
	11	1936	71	石内小学校創設時（明治5・6年ごろ）の風景を日本画に描く 石内尋常高等小学校校歌『高い山長い水』を作詞作曲		   
	12	1937	72	自作史歌劇「梓弓」をNHKで放送 臼山八幡神社に神楽「あらひら」を描いた絵馬を奉納		
	13	1938	73	石内の個人宅に神楽やオペラなどを題材とした日本画を残す（5点確認済み）		
	15	1940	75	3月13日 逝去		